第54回　全国中学校社会科教育研究大会
第39回　関東ブロック中学校社会科教育研究大会
第74回　東京都中学校社会科教育研究大会　　講演資料

「社会的な見方・考え方を働かせた歴史的分野の授業づくりと学習評価」

文部科学省　初等中等教育局　　視学官
（併）　初等中等教育局　教育課程課　　教科調査官
国立教育政策研究所　教育課程研究センター　教育課程調査官
藤野　敦

概要

Ⅰ　学習指導要領改訂の概要と考え方

Ⅱ　新学習指導要領で社会科に求められる学びは

（「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習改善）

①　社会の学習過程のイメージ

②　学習上の課題（問い）と「見方・考え方」

(小学校とのつながり)

③　資料の活用と「見方・考え方」

④　単元計画の作成と学習指導要領

Ⅱ　「指導と評価の一体化」

～教師の指導改善と児童生徒の学習改善のために～

①　学習指導要領の記載から評価規準の設定まで

(目標と観点の趣旨、「内容のまとまりごとの評価規準」)

②「学習改善につなげる評価」の場面と、

「評定に用いる評価」（記録に残す評価）の場面

③「単元の評価規準」の設定例

④3観点をどのように評価するか（評価の具体的イメージ）

（⑤高等学校とのつながり）

学習指導要領改訂の考え方

【参考】学校教育法第３０条第２項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

新しい時代に必要となる資質･能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く**知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携･協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現
各学校における「**カリキュラム･マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質･能力を踏まえた教科･科目等の新設や目標･内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質･能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

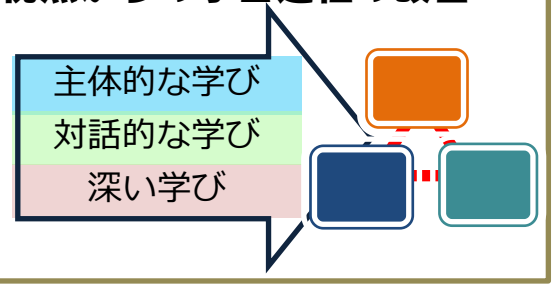
学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

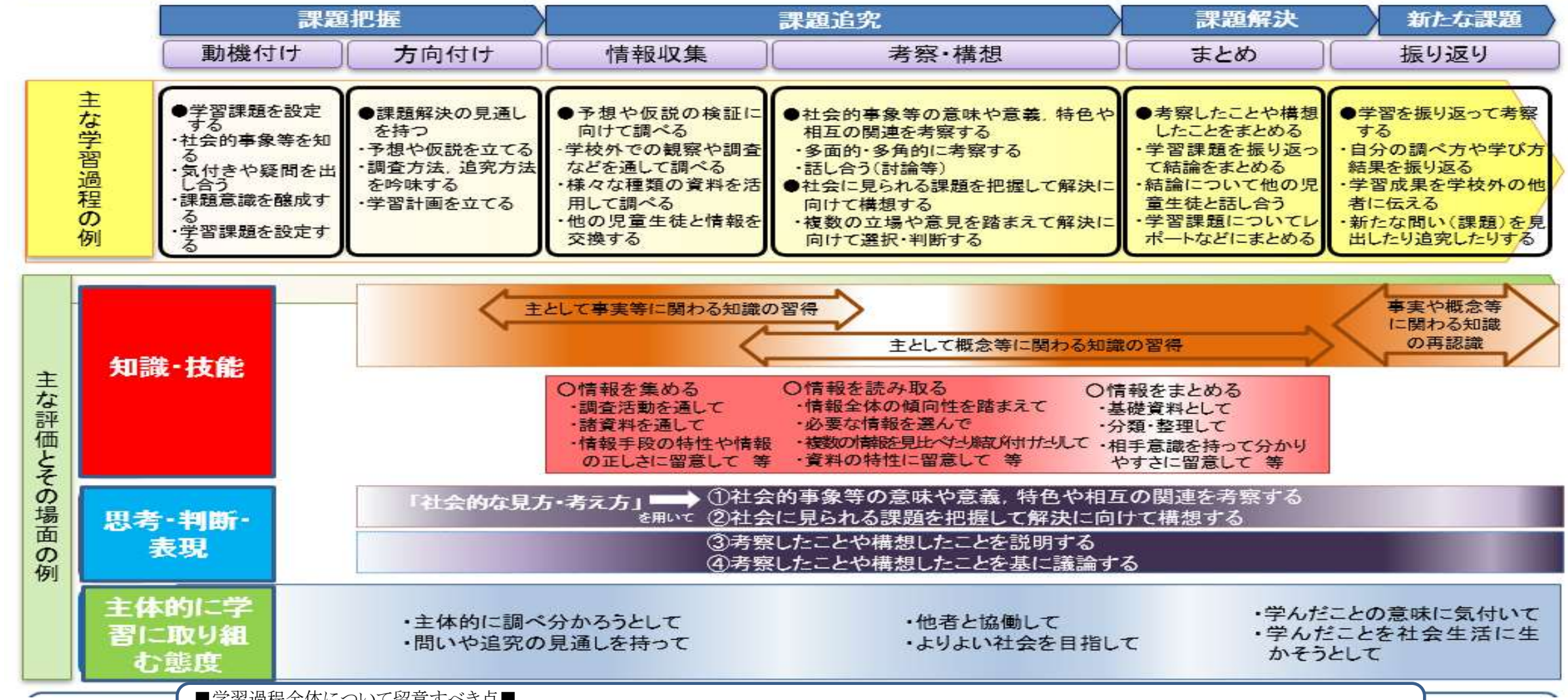
主体的･対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識･技能の習得など、新しい時代に求められる資質･能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善



社会科，地理歴史科，公民科における学習過程のイメージ



■学習過程全体について留意すべき点■

・上記の学習過程及び評価の場面は例示であり，上例に限定されるものではないこと

・主体的・対話的で深い学びを意図した，単元の構成の工夫等が望まれること

・社会的事象等については，児童生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが重要であること。その際，特定の事柄を強調しすぎたり，一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど偏った取扱いにより，児童生徒が多面的・多角的に考察し，事実を客観的に捉え，公正に判断することを妨げることのないよう留意すること。また，客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意すること

「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせることのできる課題(問い）の設定に向けて
小学校・中学校の学習指導要領「解説」に示された「問い」の比較　何がどう違うのか？

小学校社会 第6学年 (2)我が国の歴史上の主な事象

(カ) キリスト教の伝来，織田・豊臣の天下統一

(キ)江戸幕府の始まり，参勤交代や鎖国などの幕府の政策，身分制

(ク)歌舞伎や浮世絵，国学や蘭学

- 当時の世の中はどのような様子だったか，織田信長や豊臣秀吉らはどのようにして力を伸ばしたか，どのような政策を進めたか
- 江戸幕府はどのように始まったか，幕府はどのように世の中を治めたか
- 歌舞伎や浮世絵はどのような人々に親しまれていたか，国学や蘭学はどのような学問だったのか，どのようにして作り上げたのか

中学校社会 歴史的分野

B　近世までの日本と東アジア　(3)近世の日本

- 安土桃山時代の文化は，それ以前の文化とどのような違いがあるのだろうか，
- またその違いはどのような政治や社会の動きから生まれたのだろうか
- ヨーロッパ人はなぜアジアに来たのだろうか
- なぜ町人が文化の担い手となったのだろうかなぜ幕府の政治は改革が必要となったのだろうか

「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせることのできる課題（問い）の設定に向けて
「見方・考え方」と課題（問い）の設定との関係　（＜参考＞小学校，高等学校）

小学校社会　「解説」　第２章　第１節　社会科の目標

- 例えば，…**分布，地域，範囲**（位置や空間的な広がり）などを問う視点から，また，なぜ始まったのか，どのように変わってきたのかなどと，**起源，変化，継承**（**時期や時間の経過**）**などを問う視点**から，…**工夫，関わり，協力**（事象や人々の相互関係）などを問う視点から，**それぞれ問いを設定して**，社会的事象について**調べて**，その様子や現状などを**捉えること**である。また，どのような違いや共通点があるかなどと，**比較・分類したり総合したり**，どのような役割を果たしているかなどと，地域の人々や国民の生活と**関連付けたりする方法で**，**考えたり選択・判断したりすること**などである。

中学校社会（歴史的分野）　「解説」２（１）目標

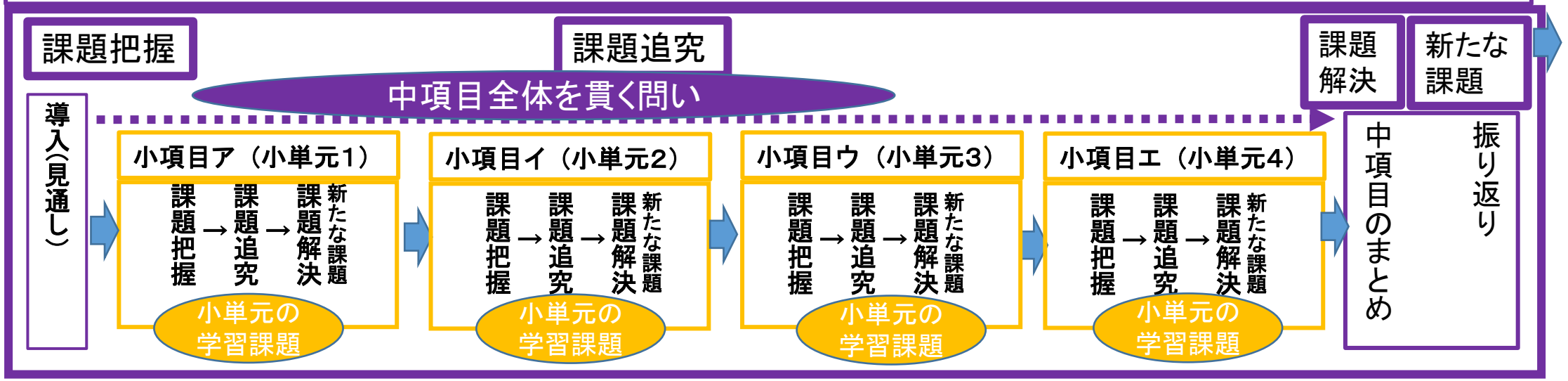
- 社会的事象の歴史的な見方・考え方については，今回の中央教育審議会答申を踏まえ，**「社会的事象を，時期，推移などに着目して捉え，類似や差違などを明確にし，事象同士を因果関係などで関連付けること」**とし，考察，構想する際の「視点や方法（考え方）」として整理した。**時期，年代など時系列に関わる視点，展開，変化，継続など諸事象の推移に関わる視点，類似，差異，特色など諸事象の比較に関わる視点，背景，原因，結果，影響など事象相互のつながりに関わる視点などに着目して捉え，比較したり，関連させたりして社会的事象を捉えたりすること**として整理したものである。

「見方・考え方」と課題（問い）の設定との関係　（中学校　社会　歴史的分野）

中学校社会　歴史的分野　「解説」２（１）目標

- **社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通してとは，歴史的分野の学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために，分野の学習において課題（問い）を設定し，その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ，課題を追究したり解決したりする活動が展開されるように学習を設計することが不可欠であることを意味している。**

歴史的分野　中項目(内容のまとまり)



「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせることのできる課題（問い）の設定に向けて
学習指導要領及び「解説」の記載と課題（問い）の設定（「解説」pp.87～88）

B(3)「近世の日本」の学習指導要領記載 ⇒ 歴史的分野の小項目の構造

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等
ア　次のような知識を身に付けること。 (ｱ) 世界の動きと統一事業 ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊　臣による統一事業とその当時の対外関係，武将　や豪商などの生活文化の展開などを基に，近世社会の基礎がつくられたことを理解すること。 (ｲ) 江戸幕府の成立と対外関係 江戸幕府の成立と大名統制，身分制と農村の様子，鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に，幕府と藩による支配が確立したことを理解すること。 (ｳ) 産業の発達と町人文化 産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりなどを基に，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解すること。 (ｴ) 幕府の政治の展開 社会の変動や欧米諸国の接近，幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどを基に，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解すること。	イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。 (ｱ)　交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして， アの(ｱ)から(ｴ)までについて 近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現すること。 (ｲ)　近世の日本を大観して，時代の特色を 多面的・多角的に考察し，表現すること。

ア　「知識（及び技能）」に関わる事項

イ　「思考力，判断力，表現力等」に関わる事項

ア(ｱ)
① 産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりなどを**基に**

イ(ｱ)
② 産業の発達と文化の担い手の変化…などに**着目して**，

「見方・考え方」を働かせて

課題(問い)を設定し

③近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に**考察し，表現すること**

④ 町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを**理解すること**

課題(問い)　生徒が「見方・考え方」を働かせるために

例:ある教科書に示されている問い

- 江戸幕府はどのように全国を支配したのでしょうか。
- 江戸幕府はどのように人々を支配したのでしょうか。
- 江戸幕府はどのように変化をしていったのでしょうか。
- 江戸時代の日本は世界とどのように結ばれていたのでしょうか。
- 江戸時代には,どのような産業が発達したのでしょうか。

授業者の意識によっては,事象を並べることで留まってしまうことも…
⇒「見方・考え方」を働かせることを、より明確にするためには,どのような工夫が求められるでしょうか…

〇時系列に関わる視点
　時期，年代，　など
〇諸事象の推移に関わる視点
　展開，変化，継続　など
〇諸事象の比較に関わる視点
　類似，差異，特色　など
〇事象相互のつながりに関わる視点
　背景，原因，結果，影響　など

…に着目して捉え，類似や差異などを明確にしたり，事象同士を因果関係などで　関連付けたりすること。

「学習の過程や構造について」②

◎社会的事象の歴史的な見方･考え方(中学校歴史的分野) 中教審答申 資料 別添3－5より

考えられる視点例	社会，地理歴史，公民における思考力，判断力
○時系列に関わる視点 時期，年代，　など ○諸事象の推移に関わる視点 展開，変化，継続　など ○諸事象の比較に関わる視点 類似，差異，特色　など ○事象相互のつながりに関わる視点 背景，原因，結果，影響　など	**◎社会的事象の歴史的な見方・考え方** 社会的事象を，時期や推移などとの関わりに着目して捉え，類似や差異などを明確にしたり，事象同士を因果関係などで　関連付けたりすること。 考察：時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力 構想：歴史に見られる諸課題について，複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

視点を生かした，考察や構想に向かう「問い」の例

- いつ（どこで，誰によって）おこったか
- 前の時代とどのように変わったか
- どのような時代だったか
- なぜ起こったの（何のために行われた）か
- どのような影響を及ぼしたのか

- なぜ，そのような判断をしたと考えられるか
- 歴史を振り返り，よりよい未来の創造のために，どのようなことが必要とされるのか

資料の活用と理解（問い方を少しだけ変化させると…）

教師の説明のエビデンス：
「このことはこの資料からわかりますね。」
「資料〇を見てください。このように〇〇ですね」

これは、教師が説明することの根拠を示しているのみ？

⇒ （教師の文脈で進行）

＜資料→解説→資料→……＞

（生徒の問題意識、主体的課題意識は生まれにくい。資料を「活用」する場面がみられない）

課題（問い）を設定して資料を読み取る
：「この資料からわかることは何だろうか。」「2つの資料から何が言えるだろうか」

- **資料から生徒が抽出できることから展開(⇒考察へ)**

⇒（生徒の文脈で進行）

・資料を生徒が「どのように見て」「解釈をして」（「見方、考え方」を働かせて）対話。

「考察し，理解」「資料を活用」するプロセスが存在する

→→結果的に知識が「身に付く」

社会的事象等について調べまとめる技能（１）

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編 p. 186（小学校，高等学校解説にも同様の記載）

技能の例（小・中・高等学校）			
情報を収集する技能	事象や手段等に着目して課題を解決するために必要な社会的な情報を集める技能	【１】調査活動を通して 〇野外調査活動 ・調査の観点（数，量，配置等）に基づいて，現地の様子や実物を観察し情報を集める ・景観のスケッチや写真撮影等を通して観察し，情報を集める ・地図を現地に持って行き，現地との対応関係を観察し，情報を集める 〇社会調査活動 ・行政機関や事業者，地域住民等を対象に聞き取り調査，アンケート調査などを行い，情報を集める 【２】諸資料を通して 〇資料の種類 ・地図（様々な種類の地図）や地球儀から，位置関係や形状，分布，面積，記載内容などの情報を集める ・年表から，出来事やその時期，推移などの情報を集める ・統計（表やグラフ）から傾向や変化などの情報を集める ・新聞，図書や文書，音声，画像（動画，静止画），現物資料などから様々な情報を集める	〇その他 ・模擬体験などの体験活動を通して人々の仕事などに関する情報を集める ・博物館や郷土資料館等の施設，学校図書館や公共図書館，コンピュータなどを活用して映像，読み物や紀行文，旅行経験者の体験記など様々な情報を集める ・コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して，目的に応じて様々な情報を集める 【３】情報手段の特性や情報の正しさに留意して ・資料の表題，出典，年代，作成者などを確認し，その信頼性を踏まえつつ情報を集める ・情報手段の特性に留意して情報を集める ・情報発信者の意図，発信過程などに留意して情報を集める

社会的事象等について調べまとめる技能（２）

情報を読み取る技能	考え方に沿って読み取る技能・収集した情報を社会的な見方・	**【１】情報全体の傾向性を踏まえて** ・位置や分布，広がり，形状などの全体的な傾向を読み取る ・量やその変化，区分や移動などの全体的な傾向を読み取る ・博物館や郷土資料館等の展示品目の配列から，展示テーマの趣旨を読み取る **【２】必要な情報を選んで** **〇事実を正確に読み取る** ・形状，色，数，種類，大きさ，名称などに関する情報を読み取る ・方位，記号，高さ，区分などを読み取る（地図） ・年号や時期，前後関係などを読み取る（年表） **〇有用な情報を選んで読み取る** ・学習上の課題の解決につながる情報を読み取る ・諸情報の中から，目的に応じた情報を選別して読み取る **〇信頼できる情報について読み取る**	**【３】複数の情報を見比べたり結び付けたりして** ・異なる情報を見比べ（時期や範囲の異なる地域の様子など）たり，結び付け（地形条件と土地利用の様子など）たりして読み取る ・同一の事象に関する異種の資料（グラフと文章など）の情報を見比べたり結び付けたりして読み取る ・同種の資料における異なる表現（複数の地図，複数のグラフ，複数の新聞など）を見比べたり結び付けたりして読み取る **【４】資料の特性に留意して** ・地図の主題や示された情報の種類を踏まえて読み取る ・歴史資料の作成目的，作成時期，作成者を踏まえて読み取る ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る
情報をまとめる技能	読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能	**【１】基礎資料として** ・聞き取って自分のメモにまとめる ・地図上にドットでまとめる ・数値情報をグラフに転換する（雨温図など） **【２】分類・整理して** ・項目やカテゴリーなどに整理してまとめる ・順序や因果関係などで整理して年表にまとめる ・位置や方位，範囲などで整理して白地図上にまとめる ・相互関係を整理して図（イメージマップやフローチャートなど）にまとめる ・情報機器を用いて，デジタル化した情報を統合したり，編集したりしてまとめる	**【３】情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して** ・効果的な形式でまとめる ・主題に沿ってまとめる ・レイアウトを工夫してまとめる ・表などの数値で示された情報を地図等に変換する

「適切な指導計画作成の留意点」

（「参考資料」p. 63）

中項目　**B (3)　近世の日本**

評価事例における「小単元」「次」などの基本的な示し方

課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

小単元1　(ア) 世界の動きと統一事業
（略）

小単元２　(イ) 江戸幕府の成立と対外関係

①次　江戸幕府の成立と大名統制，
②次　身分制と農村の様子，
③次　鎖国などの幕府の対外政策と対外関係
などを基に，

（小単元のまとめ）
④次　幕府と藩による支配が確立したことを理解すること。

小単元3　(ウ) 産業の発達と町人文化
（略）

小単元4　(エ) 幕府の政治の展開
（略）

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア)　交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，アの(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現すること。

中項目のまとめ

(イ)　近世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現すること。

歴史的分野の中項目は20時間を越えるような単元構成となることもあるため，その中に設定されている「小単元」などにおいて，適宜，生徒の学習状況を評価する場面を設定することも大切である。

「参考事例」 B(3)「近世の日本」の評価計画に対応する図である。
全体の見通しを立てる「中項目の導入」に続き，学習指導要領上のア(ア)から(エ)に対応した4つの「小単元」，さらにイ(イ)に応じた「中項目のまとめ」によって構成されている。それぞれの小単元の下の複数の「次」は，1または複数の単位時間を想定している。

B(3)「近世の日本」の指導計画の概要例と留意点（「参考資料」pp. 64–66）

指導計画のポイント

●中項目全体の学習の見通しを立てる。

●個別の事象について、資料を踏まえて情報を収集し、視点をもって考察、表現する。

B(3)「近世の日本」の指導計画（一部のみ）　（○…「評定に用いる評価」，●…「学習改善につなげる評価」）

	学習活動	評価の観点 知	思	態	評価規準等
中項目の導入	中項目全体を貫く問い 「あなたは，近世社会の基礎はどのように築かれ，どのように変容し，近代へとつながったと考えるか」				
	・　教科書や資料集，これまでの学習や小学校での学習を踏まえて，中項目全体を貫く問いについて考察し，ワークシートに記入する			●	●小学校での学習などを基に，中項目全体を貫く問いに対する学習の見通しを立て，学習を通して明らかにしようとしている。
	（小単元１　「世界の動きと統一事業」　省略）				
小単元２	小単元の学習課題「なぜ，江戸幕府は長い間，政治の権力を保てたのだろうか」				
	①　１次の課題「江戸幕府はどのように大名を統制したのだろうか」について，資料を活用して考察し，話し合った結果を発表する。	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。
			●		●１次の課題について，中世の武家政治との違いや諸政策の目的に着目して考察し，相互に結果を表現している。
	②　２次の課題「江戸時代の社会の仕組みの中で，農村や各地の特産品はどのような役割を担っていたのだろうか」について，資料を活用して考察し，ワークシートに記入する。	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。
			●		●２次の課題について，諸政策の目的，農村の生活や幕藩体制の経済基盤との関係などに着目して考察し，その結果を表現している。
	③　３次の課題「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係はその後の日本にどのような影響を与えただろうか」について，資料を活用して考察し，話し合った結果をワークシートに記入する。	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。
			●		●３次の課題について，貿易政策が与えた影響などに着目して考察し，相互に結果を表現している。

小学校の学習を踏まえて、大きな問いについて、考えてみる機会を設定する。→**見通し**

小単元の学習課題(=小単元のねらい）を踏まえ第①次～第③次の課題(問い)を設定。(第④次は①～③次のまとめ)

各次の課題(問い）（≒各次のねらい）を考察するために…
・どのような事象を取り上げるか，
・そのために、どのような資料を活用するか…を計画する。

・課題(問い）の考察
・※ただ「考える」ではなく、「どのような視点をもってどのように考察？」＝（「見方・考え方」を働かせて考察する）。
・何を題材に考察？→「資料の提示」(→感想を話すだけ？→知識や思考を深めるための考察となっているか)

○小単元２の学習をまとめ、視点をもって考察、表現して、概念的な知識として理解する。

	④　各次の学習内容を踏まえて，小単元の学習課題「なぜ，江戸幕府は長い間，政治の権力を保てたのだろうか」について資料を活用して考察し，ワークシートに記入する。 ・　中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。	○	○	●	○統一政権の諸政策の目的などに着目して，小単元の学習課題について考察し，結果を表現している。 ○「幕府と藩による支配が確立したこと」を説明している。 ●自己の学習について振り返り，調整しようとしている。
	(小単元３　「産業の発達と町人文化」　省略)				
	(小単元４　「幕府政治の展開」　省略)				
中項目のまとめ	＜課題１＞「中項目(近世の日本)の学習を踏まえ，他の時代との共通点や相違点に着目して，近世社会の変化について自分の考えをまとめてみよう」 ＜課題２＞1)「作成したレポートと，単元のはじめに記した自分の『学習の見通し』を比べ，加わった点や新たに気付いた点など振り返ってみよう」 2)「近世の社会の変化の学習を振り返り，そのつながりに着目して，次の時代に大切になると思うキーワードをいくつかあげて，その理由を示してみよう」				
	＜課題１＞について 中項目全体を貫く問いを確認し，小単元４までの学習を振り返り，前の時代と比較するなどして，近世の社会の特徴的な変化を選び，ワークシートなどにまとめる。		○		○近世の社会の変化の様子について，政治の展開，産業の発達，社会の様子，文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目し，比較したり関連付けたりするなどして多面的・多角的に考察し獲得した知識を活用して学習を振り返る中で，時代の特色を文章や図などでまとめている。
	＜課題２＞について 1)　当初の自己の学習の見通しと比較し，新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてワークシートなどにまとめる。 2)　次の時代につながると考えられる事柄をあげて，その理由を説明する。			○	○この中項目における自身の学習の経緯について振り返り，学習の方法や留意点について自身の学びを確認，調整しようとしているとともに，推移や変化，影響などに着目して近世の社会の変化の様子の中から，近代につながる動きをあげるなど，次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

○小単元１～４を踏まえ、中項目全体の学習をまとめるとともに、生徒自身が「導入」時の「見通し」と比較するなどして、自身の学習の調整を行い、次の学習へ向かう。

小単元の学習課題＝（第①次＋第②次＋第③次）の課題(問い)

中項目(この場合は「近世の日本」全体）の大きな単元の中で、この小単元の学習の関係を確認しておく。

大項目「近世の日本」の学習の振り返り

＜課題１＞　「時代の特色」
学習してきた内容のまとめ

＜課題２＞　自分の学習方法、留意点、加わった学習の視点などの確認(振り返り)

１）「近世の日本」のはじめの自分の見通しと、最後の「＜課題１＞学習内容のまとめ」とを比較して、自分が獲得したことを確認(自分にどのような視点が加わったのか,どのような方法を獲得したのか、など)
⇒…などを知った、などは＜課題1＞で確認すること。ここは学びそのものに注目させる。

２）どのように学習することが大切なのか、次に生かせる内容を表現。

学習評価について

- ☐ 教師の指導改善に
  つながるものにしていくこと
- ☐ 児童生徒の学習改善に
  つながるものにしていくこと
- ☐ これまで慣行として行われてきたことでも，
  必要性・妥当性が認められないものは
  見直していくこと

学習評価について指摘されている課題

学習評価の現状について、学校や教師の状況によっては、以下のような課題があることが指摘されている。

- **学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く**、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない

- 現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない

- 教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい

- 教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない

- 相当な労力をかけて記述した指導要録が、次の学年や学校段階において十分に活用されていない

先生によって観点の重みが違うんです。授業態度をとても重視する先生もいるし、テストだけで判断するという先生もいます。そうすると、どう努力していけばよいのか本当に分かりにくいんです。
（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ第7回における高等学校三年生の意見より）

生徒の意見

＜参考＞報告P．４～５　改善等通知１．（３）

指導と評価の一体化…平たく言ってしまえば…（教育課程課長との対談における市川伸一教授の言）

「指導と評価の一体化」は昔から使われている言葉だと思います。平たく言ってしまえば、指導したことをきちんと評価しましょう。評価したことを指導にも生かしましょうということです。

これに齟齬がある状態というのは、例えば、国語でしたら、論理的な文章を書いてほしいと先生が指導したのに漢字テストしか行わないという状態です。そうなれば子供としては、テストで問われるのは結局漢字なんだから、論理的な筋道の通った作文を書くより、漢字ドリルをやるほうがいいやとなってしまいます。せっかく指導しているのに評価しないという状況は良くないだろうと言うことです。

そしてさらに、子供の作文を評価したとしても、それをただ君の作文はＡでした、Ｂでしたと返すだけではなくて、どうすればＣのものがＢになるのか、Ｂのものがなるのかという指導をきちんと入れないと、子供は改善の手立てがありません。評価したのであれば、その結果を普段の指導の中でも生かしていって、子供の学習の改善サイクルがうまく回るようにすることは大事なことだと思います。

※「初等教育資料」令和元年６月号Ｐ４９、「中等教育資料」令和元年６月Ｐ１４

指導に生かす評価の場面と、記録に残す場面

①…学習状況を見取り，生徒の成長を認め励ますとともに，必要に応じて指導や支援を行う日常の学習改善に生かすことを主眼とした評価場面。

（例えば，机間指導やワークシートなどを活用しながら，生徒が資料を活用できているか，視点をもって課題を考察しているかなどについて，学習の状況を確認する）

→ここではＡ，Ｂ等の評価を記録する必要はなく，学習がうまく進んで「概ね満足できる」状況に至ることができるかどうかを確認し，不十分である場合は適切な助言を与える。

②…例えば単元末などで，観点別学習状況の評価や、評定のための資料として用いる評価の場面

→Ａ，Ｂ，Ｃなどを記録する場面を表し，単元のまとめに等において，数時間の学習のまとまりの学習の成果として評価を行う。

なお，このように評価の場面を整理することで，常に評価を記録することに追われてしまう状況を改善することにも有効。

社会科ではこう示しています「学習改善につなげる評価」と「評定に用いる評価」

日々の授業の中では生徒の学習状況を適宜把握して指導に生かすことに重点を置きつつ，単元を見通して，観点別学習状況の評価をするために必要な記録を取ることになる。

- **「学習改善につなげる評価」…●**
  学習状況を見取り，生徒の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導，支援を行う日常の学習改善につなげる評価
  （ワークシート記入やグループワークの様子、机間指導などで生徒の状況を見取る。B規準に達しないような見通しがあれば、支援や指導方法の改善を図る。）

- **「評定に用いる評価」…○**
  観点別学習状況の評価や評定のための資料として用いる評価　　*（A,B,Cの評価を行う）*

「参考資料」に示す各事例には，●○という記号を付して，その評価場面を示している。

小単元1

【ねらい】交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，多面的・多角的に考察し，表現することを通して，近世社会の基礎が作られたことを理解する。
小単元の学習課題「安土桃山時代の文化は，それ以前の文化とどのような違いがあるのだろうか，またその違いはどのような政治や社会の動きから生まれたのだろうか」

① 1次の課題「ヨーロッパ人はなぜアジアに来たのだろうか」について，資料を活用して考察し，話し合った結果を発表する。	●			・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。
		●		・1次の課題について，16世紀に至る世界の結び付きなど交易の広がりとその影響などに着目して考察し，相互に結果を表現している。
② 2次の課題「織豊政権下の政策は社会をどのように変えようとしたのか」について，資料を活用して考察し，話し合った結果をワークシートに記入する。	●			・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている
		●		・2次の課題について，中世社会との比較に着目して考察し，相互に結果を表現している。
③ 3次の課題「武将や豪商たちの経済力と戦乱の気風は，南蛮貿易や朱印船貿易の影響とともに，日本の社会にどのような変化をもたらしたか」について，資料を活用して考察し，ワークシートに記入する。	●			・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。
		●		・3次の課題について，当時の政治や文化の動向に着目して考察し，結果を表現している。
④ 各次でワークシートに記入した事柄を踏まえて，小単元の学習課題「安土桃山時代の文化は，それ以前の文化とどのような違いがあるのだろうか，またその違いはどのような政治や社会の動きから生まれたのだろうか」について考察し，ワークシートに記入する。		○		・交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的などに着目して小単元の学習課題について考察し，結果を表現している。
	○			・「近世社会の基礎が作られたこと」について説明している。
○中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。			●	・自己の学習について振り返り，調整しようとしている。

1-②　中学校社会科における分野別の評価の観点の趣旨

●教科同様に、各分野の目標を踏まえて作成された、各分野別の評価の観点の趣旨を確認する。
「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(「参考資料」p.105,109,114参照)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野	我が国の国土及び世界の諸地域に関して，地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに，調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	日本や世界の地域に関わる諸事象について，国家及び社会の担い手として，よりよい社会の実現を視野に**そこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている**。
歴史的分野	我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特色を踏まえて理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	歴史に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	歴史に関わる諸事象について，国家及び社会の担い手として，よりよい社会の実現を視野に**そこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている**。
公民的分野	個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し，民主主義，民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動との関わり，現代の社会生活及び国際関係などについて，個人と社会との関わりを中心に理解を深めているとともに，諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり，現代社会に見られる課題について公正に判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	現代の社会的事象について，国家及び社会の担い手として，現代社会に見られる**課題の解決**を視野に**主体的に社会に関わろうとしている**。

中学校社会科における内容のまとまり（「参考資料」p.27）

〔地理的分野〕

A 世界と日本の地域構成	**(1) 地域構成**
B 世界の様々な地域	**(1) 世界各地の人々の生活と環境**
B 世界の様々な地域	**(2) 世界の諸地域**
C 日本の様々な地域	**(1) 地域調査の手法**
C 日本の様々な地域	**(2) 日本の地域的特色と地域区分**
C 日本の様々な地域	**(3) 日本の諸地域**
C 日本の様々な地域	**(4) 地域の在り方**

〔歴史的分野〕

A 歴史との対話	**(1) 私たちと歴史**
A 歴史との対話	**(2) 身近な地域の歴史**
B 近世までの日本とアジア	**(1) 古代までの日本**
B 近世までの日本とアジア	**(2) 中世の日本**
B 近世までの日本とアジア	**(3) 近世の日本**
C 近現代の日本と世界	**(1) 近代の日本と世界**
C 近現代の日本と世界	**(2) 現代の日本と世界**

〔公民的分野〕

A 私たちと現代社会	**(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色**
A 私たちと現代社会	**(2) 現代社会を捉える枠組み**
B 私たちと経済	**(1) 市場の働きと経済**
B 私たちと経済	**(2) 国民の生活と政府の役割**
C 私たちと政治	**(1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則**
C 私たちと政治	**(2) 民主政治と政治参加**
D 私たちと国際社会の諸課題	**(1) 世界平和と人類の福祉の増大**
D 私たちと国際社会の諸課題	**(2) よりよい社会を目指して**

（「参考資料」）

中学校社会科では
学習指導要領
「内容」の中項目が
「内容のまとまり」

学習指導要領の「内容」の記述から「内容のまとまりごとの評価規準（例）」の作成

①学習指導要領
中学校社会
歴史的分野

B(3)
「近世の日本」

課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
(ア) 世界の動きと統一事業 ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを基に，近世社会の基礎がつくられたことを理解すること。 (イ) 江戸幕府の成立と対外関係 江戸幕府の成立と大名統制，身分制と農村の様子，鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に，幕府と藩による支配が確立したことを理解すること。 (ウ) 産業の発達と町人文化 産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりなどを基に，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解すること。 (エ) 幕府の政治の展開 社会の変動や欧米諸国の接近，幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどを基に，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解すること。	(ア) 交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，アの(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現すること。 (イ) 近世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現すること。	（記載なし）

②「近世の日本」

「内容のまとまりごとの評価規準(例)」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを基に，**近世社会の基礎がつくられたことを理解**している。 ・江戸幕府の成立と大名統制，身分制と農村の様子，鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に，**幕府と藩による支配が確立したことを理解**している。 ・産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりなどを基に，**町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解**している。 ・社会の変動や欧米諸国の接近，幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどを基に，**幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解**している。	・交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，アの(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ・近世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。	・近世の日本について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 分野別の観点の趣旨参照

B(3)「近世の日本」の「単元の評価規準」の作成とその留意点（「参考資料」p. 62）

●学習の過程の中で，「技能」が適切に活用されているかどうか」を確認。

〇（小単元のまとめ）「理解しているかどうか」を確認するのは、これらの部分。
個別的な知識を「知っている」のみに留まらない。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，近世社会の基礎がつくられたことを理解している。 ・ 江戸幕府の成立と大名統制，身分制と農村の様子，鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ・ 産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりなどを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 ・ 社会の変動や欧米諸国の接近，幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。	・ 交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ・ 近世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。	・ 近世の日本について，見通しをもって学習に取り組もうとし， 学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 ・ 学習を振り返るとともに，次の学習へのつながりを見出そうとしている。

●「見通し」を立てる学習活動を設定。

●（小単元のまとめ）生徒が中項目の学習との関係を確認。

〇（小単元のまとめ）視点をもって、社会の変化の様子を考察、表現しているか。

〇それまで学習したことを踏まえた，この単元のまとめとしての考察，表現。

〇生徒が自らの学習状況を把握し，学習の進め方に試行錯誤するなど、自己調整をしながら学ぼうとしているかなどを確認。

学習評価　観点別学習状況評価の各観点

知識・技能

各教科等における学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに，それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で，他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり，技能等を習得したりしているかを評価します。

思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して**課題を解決する等のために必要な**思考力，判断力，表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

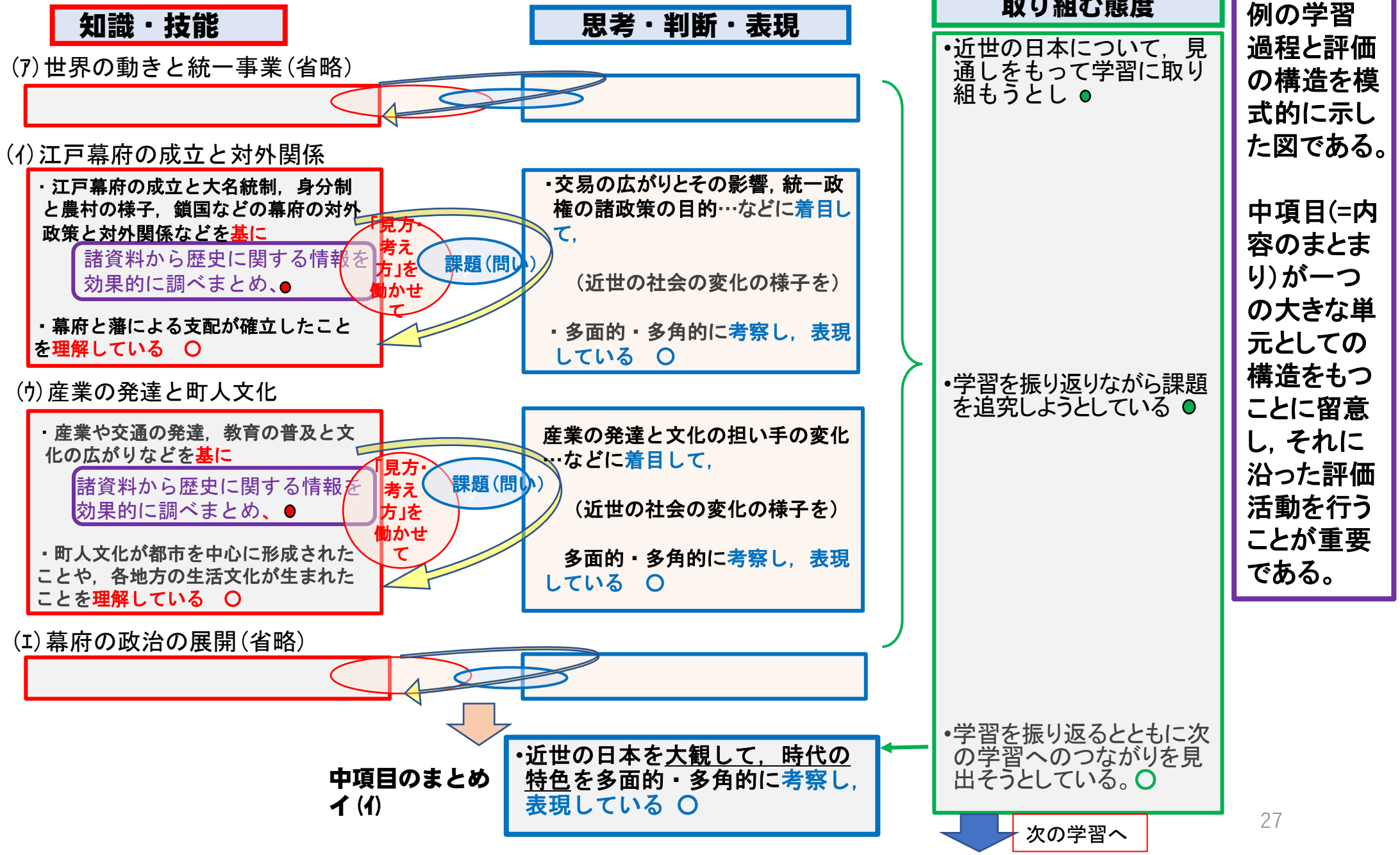
主体的に学習に取り組む態度

知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を**身に付けたりするために，**自らの学習状況を把握し，学習の進め方について試行錯誤するなど**自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうか**という意思的な側面を評価します。

中学校学習指導要領解説 総則編 p. 86-87 「(4)見通しを立てたり，振り返ったりする学習活動」は必読。（小学校、高校も同様の記載あり）

単元構造を踏まえた指導と評価の計画の作成
学習の過程と評価の構造図　B（3）近世の日本」を事例に

（「参考資料」 p. 69）



前出の事例の学習過程と評価の構造を模式的に示した図である。

中項目(=内容のまとまり)が一つの大きな単元としての構造をもつことに留意し，それに沿った評価活動を行うことが重要である。

学習の展開における評価を重視。 B(3)「近世の日本」 （「参考資料」pp. 64–66）

B(3)「近世の日本」の指導計画（一部のみ） （○…「評定に用いる評価」，●…「学習改善につなげる評価」）

	学習活動	評価の観点 知	思	態	評価規準等
中項目の導入	中項目全体を貫く問い 「あなたは，近世社会の基礎はどのように築かれ，どのように変容し，近代へとつながったと考えるか」				
	・ 教科書や資料集，これまでの学習や小学校での学習を踏まえて，中項目全体を貫く問いについて考察し，ワークシートに記入する			●	●小学校での学習などを基に，中項目全体を貫く問いに対する学習の見通しを立て，学習を通して明らかにしようとしている。
	（小単元１ 「世界の動きと統一事業」 省略）				
小単元２	小単元の学習課題「なぜ，江戸幕府は長い間，政治の権力を保てたのだろうか」				
	① １次の課題「江戸幕府はどのように大名を統制したのだろうか」について，資料を活用して考察し，話し合った結果を発表する。	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。
			●		●１次の課題について，中世の武家政治との違いや諸政策の目的に着目して考察し，相互に結果を表現している。
	② ２次の課題「江戸時代の社会の仕組みの中で，農村や各地の特産品はどのような役割を担っていたのだろうか」について，資料を活用して考察し，ワークシートに記入する。	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。
			●		●２次の課題について，諸政策の目的，農村の生活や幕藩体制の経済基盤との関係などに着目して考察し，その結果を表現している。
	③ ３次の課題「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係はその後の日本にどのような影響を与えただろうか」について，資料を活用して考察し，話し合った結果をワークシートに記入する。	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。
			●		●３次の課題について，貿易政策が与えた影響などに着目して考察し，相互に結果を表現している。

（1）「知識・技能」の観点

・ 各「次」にある●印は，「技能」を確認する場面を表している。「技能」については、学習指導要領では大項目Aの「内容」に記載されているが，B,Cには明示されていない。しかし、「内容の取扱い」などに，「B以下の学習と関わらせて継続的・計画的に」学習を進めることが示されている。これを踏まえ、それぞれの学習活動に則した「技能」の評価の観点を加えている。学習の状況を把握しつつ，適切な助言を与えることが大切である。

・ 小単元の最終「次」にある〇印は，資料や既習の知識を活用しつつ，「近世社会の基礎がつくられた」という概念的な知識が獲得されていることが評価の対象となることを表している。

（2）「思考・判断・表現」の観点

・ 各「次」にある●印は，小単元の学習課題について「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせて考察するという，生徒の学習の過程を確認する場面を表している。

↓

	④　各次の学習内容を踏まえて，小単元の学習課題「なぜ，江戸幕府は長い間，政治の権力を保てたのだろうか」について資料を活用して考察し，ワークシートに記入する。 ・　中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。		○ ○	 ●	○統一政権の諸政策の目的などに着目して，小単元の学習課題について考察し，結果を表現している。 ○「幕府と藩による支配が確立したこと」を説明している。 ●自己の学習について振り返り，調整しようとしている。
	（小単元３　「産業の発達と町人文化」				省略）
	（小単元４　「幕府政治の展開」				省略）
中項目のまとめ	＜課題１＞「中項目（近世の日本）の学習を踏まえ，他の時代との共通点や相違点に着目して，近世社会の変化について自分の考えをまとめてみよう」 ＜課題２＞1)「作成したレポートと，単元のはじめに記した自分の『学習の見通し』を比べ，加わった点や新たに気付いた点など振り返ってみよう」 2)「近世の社会の変化の学習を振り返り，そのつながりに着目して，次の時代に大切になると思うキーワードをいくつかあげて，その理由を示してみよう」				
	＜課題１＞について 中項目全体を貫く問いを確認し，小単元４までの学習を振り返り，前の時代と比較するなどして，近世の社会の特徴的な変化を選び，ワークシートなどにまとめる。 ＜課題２＞について 1)　当初の自己の学習の見通しと比較し，新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてワークシートなどにまとめる。 2)　次の時代につながると考えられる事柄をあげて，その理由を説明する。		○	 ○	○近世の社会の変化の様子について，政治の展開，産業の発達，社会の様子，文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目し，比較したり関連付けたりするなどして多面的・多角的に考察し獲得した知識を活用して学習を振り返る中で，時代の特色を文章や図などでまとめている。 ○この中項目における自身の学習の経緯について振り返り，学習の方法や留意点について自身の学びを確認，調整しようとしているとともに，推移や変化，影響などに着目して近世の社会の変化の様子の中から，近代につながる動きをあげるなど，次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

↓

・小単元の最終「次」にある○印は，それまでの学習内容を踏まえて「小単元の学習課題」について考察した結果を、生徒の学習の過程に着目して評価することを表している。
・「中項目のまとめ」にある○印は，これまでの学習で獲得した知識を組み合わせたり，傾向を見出したり，類型化したりして，小単元１から4までの学習を振り返り，時代の特色を考察し，その結果を表現していることを評価する場面を表している。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の観点

・中項目の導入にある●印は中項目の学習について、生徒が見通しをもつための場面である。
・　小単元にある●印は，学習内容，学習の方法や過程を振り返り，学びの調整力を働かせることを確認する場面であることを表している。ワークシートなどから生徒の学習状況を確認し，適切な助言を与えることが考えられる。
・「中項目のまとめ」にある○印は，1)生徒が中項目全体の学習の状況を振り返り，自己の学びを確認したり調整しようとしたり，2)次の学習へのつながりを見いだそうとしたりしていることなどについて，評価を行うことが考えられる。

主体的に学習に取り組む態度

主体的に学習に取り組む態度

知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりするために，自らの学習状況を把握し，学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら，学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

◆「主体的に学習に取り組む態度」の観点については，ただ単に学習に対する粘り強さや積極性といった児童生徒の取組のみを承認・肯定するだけではなく，学習改善に向かって自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価することが必要である」

◆「自己の感情や行動を統制する能力，自らの思考の過程等を客観的に捉える力（いわゆるメタ認知）など，学習に関する自己調整にかかわるスキル…」

◆「単元や題材を通じたまとまりの中で，子供が見通しを持って学習に取り組み，その学習を振り返る場面を設定することが必要となる。」

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/1415602_1_1_1.pdf

「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法(例)

中項目のまとめ	<課題1>「中項目(近世の日本)の学習を踏まえ，他の時代との共通点や相違点に着目して，近世社会の変化について自分の考えをまとめてみよう」 <課題2>1)「作成したレポートと，単元のはじめに記した自分の『学習の見通し』を比べ，加わった点や新たに気付いた点など振り返ってみよう」 2)「近世の社会の変化の学習を振り返り，そのつながりに着目して，次の時代に大切になると思うキーワードをいくつかあげて，その理由を示してみよう」			
	<課題1>について 中項目全体を貫く問いを確認し，小単元4までの学習を振り返り，前の時代と比較するなどして，近世の社会の特徴的な変化を選び，ワークシートなどにまとめる。 <課題2>について 1) 当初の自己の学習の見通しと比較し，新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてワークシートなどにまとめる。 2) 次の時代につながると考えられる事柄をあげて，その理由を説明する。		○	○近世の社会の変化の様子について，政治の展開，産業の発達，社会の様子，文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目し，比較したり関連付けたりするなどして多面的・多角的に考察し獲得した知識を活用して学習を振り返る中で，時代の特色を文章や図などでまとめている。 ○この中項目における自身の学習の経緯について振り返り，学習の方法や留意点について自身の学びを確認，調整しようとしているとともに，推移や変化，影響などに着目して近世の社会の変化の様子の中から，近代につながる動きをあげるなど，次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

＜課題１＞＜学習した内容のまとめ＞
⇒「思考・判断・表現」の評価場面
①教師の問いに生徒が答えた記述を評価材として活用

＜課題２＞＜自身の取組や学習の方法などについての確認や調整＞⇒
「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面

- 生徒は、

①この単元の「導入」時の自身の**見通し**の記述と，

②まとめの時間の＜課題１＞の記述を**自身で比較**、⇒③この単元の学習の中で加わったり気付いたりした**学習の視点や方法**などを記述

※③を教師が評価材として活用(生徒が自己の学習を調整する姿を評価)

2)は，次の学習へのつながりを見出そうとしているかを評価する。

→単元のまとめなどで，生徒が**自身の学習の振り返り**を行う場面を計画的に設定することが重要
(⇒「自己調整」を図る学習場面を設定する)

観点別学習状況の評価の進め方とその留意点
（「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価について）

歴史的分野の「内容のまとまりごとの評価規準（例）」
「（〇〇）について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。」

・「見通し」「振り返り」が大切。

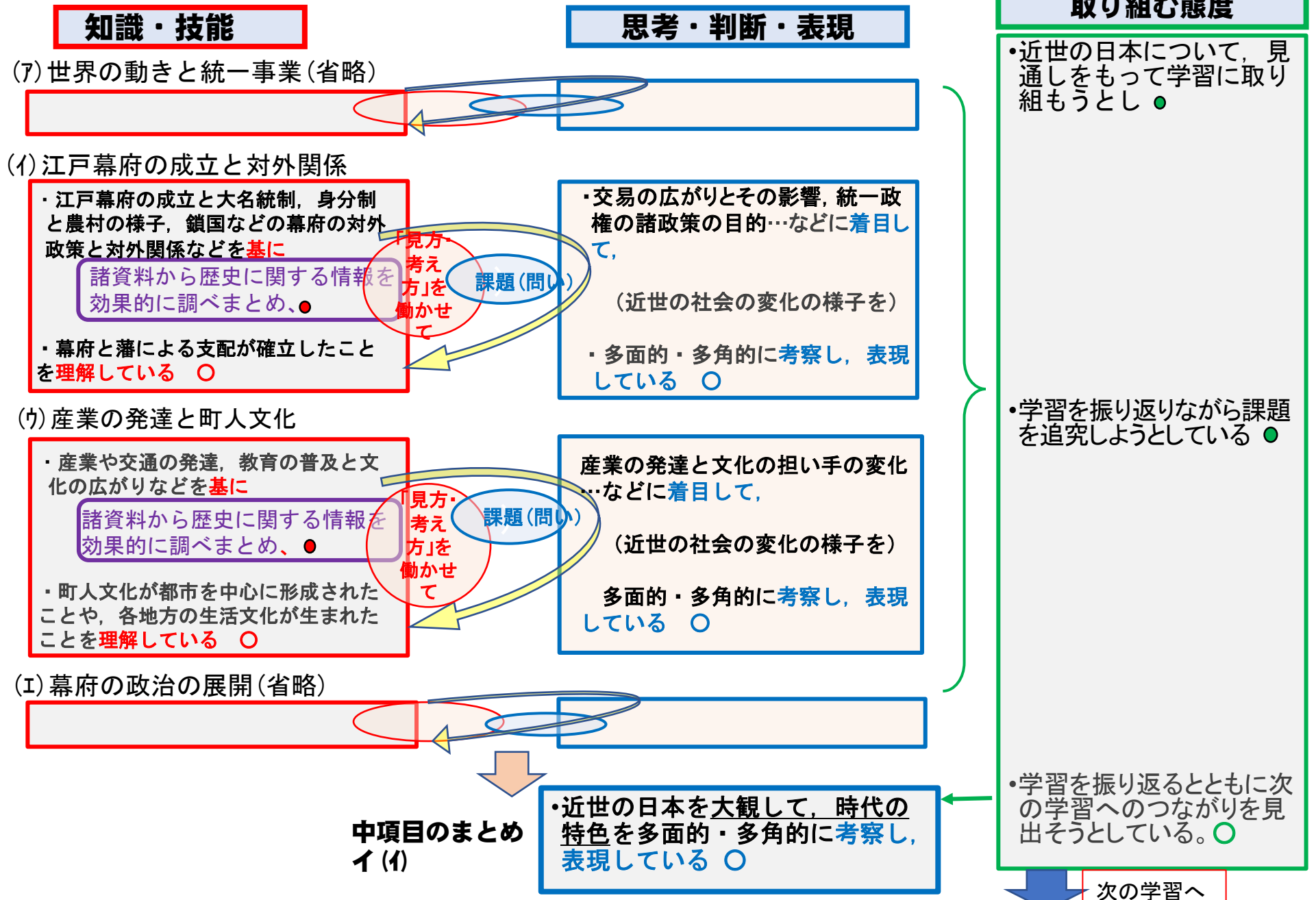
・教師は、学習後の感想や記述のみで評価するのではなく、生徒自身が継続的に記述した記録を活用(例：ワークシート、ポートフォーリオなど）するなど、生徒が自身の学習を振り返ることができる材料(資料)を工夫することが大切。

・生徒が学習を振り返る学習場面を設定し、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面」「粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整しようとする側面」を統合的に評価する。そのためには，単元計画など，学習計画上の工夫が重要。

・C（２）「現代の日本と世界」では，分野の目標の到達点として，現代の社会の諸課題を踏まえて「よりよい社会の実現を視野に追究、解決しようとしている」ことや「公民的分野の学習につなげる」ことが示されている。

単元構造を踏まえた指導と評価の計画の作成
学習の過程と評価の構造図　B（3）近世の日本」を事例に

（「参考資料」 p. 69）



前出の事例の学習過程と評価の構造を模式的に示した図である。

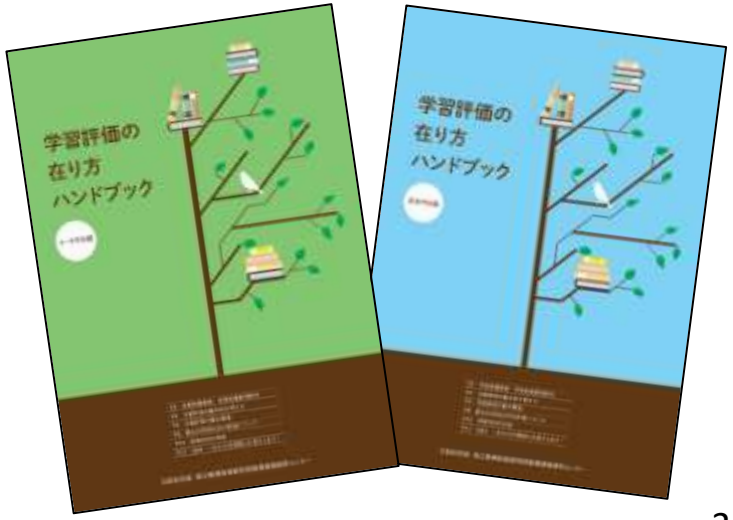
中項目(=内容のまとまり)が一つの大きな単元としての構造をもつことに留意し，それに沿った評価活動を行うことが重要である。

学習評価の在り方ハンドブック

- **令和元年6月　国立教育政策研究所作成**
  （小・中学校編、高等学校編）

- **URL**　https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-02.pdf
  （QRコードはこちら →）

- **以下の項目を、コラムも加えつつ、教師向けに分かりやすく説明（１２頁）**
  - 学習指導要領と学習評価の関係
  - 学習評価の基本的な考え方
  - 学習評価の基本構造
  - 総合的な探究の時間及び特別活動の評価について
  - 観点別学習状況の評価について
  - 学習評価の充実
  - Ｑ＆Ａ



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

- **国立教育政策研究所において、教科等ごとに作成**

  ※小学校・中学校：令和２年３月(HP公開)、6月（公刊、販売中)

  ※高等学校　※第１編及び第２編（案）　令和３年７月(各教科公開済)

  ※第3編　評価事例　令和３年8月（各教科公開予定）

  https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

  ⇒8月20日公開済

- **構成**

  第１編　総説

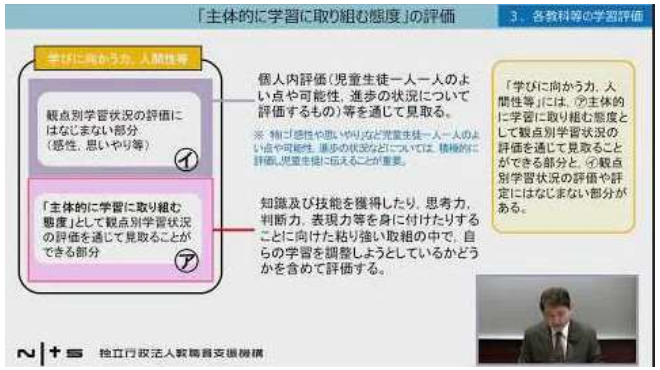
  第２編　「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の手順

  第３編　単元（題材）ごとの学習評価について（事例）

NITSのオンライン講座

- **ＮＩＴＳ（独立行政法人教職員支援機構）作成**

- **ＵＲＬ　https://www.nits.go.jp/materials/**
  （ＱＲコードはこちら →）



- **YouTubeで講義動画を配信（1本20分）**

「新学習指導要領編」

- 新学習指導要領に対応した学習評価
- 障害のある児童生徒に対する指導と評価

その他、新学習指導要領の各教科等の改訂のポイントを解説した動画等

「校内研修シリーズ」

学習指導の充実（カリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学び等）、
初等中等教育の充実（言語活動、外国語教育、道徳教育等）　など多数